

Title	三田史學會例會報告
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1956
Jtitle	史学 Vol.29, No.2 (1956. 8) ,p.116(228)- 116(228)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19560800-0117

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

記されてあつた。その中でも國寶の「文選」六十卷は、金澤文庫の舊藏本であり、北條氏の「虎印」のある北條氏政寄進の識語は國寶指定の理由となつてゐる。

晝食後次の目的地たる鑿阿寺に向う。この頃よりあやしかつた空模様は愈々降り出さんばかりとなり、庫裡の階上で展示物を見學中遂に本降りとなつてしまふ。

鑿阿寺では道路にそつて堀と土壘をめぐらした寺内に入り、諸建築物を見まわしながら伊木先生の縁起に關するお話を伺う。

開基の鑿阿寺殿といわれているのは源義家の曾孫足利義兼で、鑿阿寺は爾來約七百五十年間今日に至る迄、天災地變の厄に遭わず堂宇の舊觀を失つていないのは珍らしいと言えよう。眞言宗大日派の總本山で大日如來が本尊である。

庫裡内に入り各種寶物の觀覽に移る。先ず階下で國寶の青磁花瓶並に香爐各一對を見る。花瓶は足利義滿、香爐は同尊氏の寄進したものである。階上は大廣間一杯に古文書・什寶等が陳列されており、どれから見てもよいか一寸戸惑う程である。その中から特に目についたものを取上げれば、國寶の「平假名訓讀法華經八卷」それに「足利・新田古系圖」「足利尊氏御判物」(恩賞狀)等があり、又正和年間(千三百年代)の一山十二坊の繪圖も足利學校同様今日の狀態と照合して面白いと思つた。

假名書の法華經中の一巻に「元徳二年(一一三三〇)閏六月廿四日旬切」の奥書があつたが、これは假名書のものとしては珍らしいものださうである。尊氏の恩賞狀は南部掃部介に宛たものであ

るが、年號に南朝方のものを使用している點が珍らしい。この正平六年(一一三五一)閏二月廿六日という年記は北朝では崇光院の觀應二年に相當する。

四時頃拜觀を終え、降雨の爲一應解散し、寺内建築物の見學は自由とする。雨に降られながら見た本堂は、和様の入つた唐様建築で、天福二年(文曆元年・一一三四)建立と傳えているが、正應五年(一一九二)の建立と思はれる。應永十年(一四〇三)に修理の手が加えられてはいるものゝ、内部の蛇腹枝輪や組入天井隅丸柱等は鎌倉の建築そのままであり、往時の面影を残していた。小降りとはなつたが雨は依然として上らず、一日の有意義な見學を終えた一行は、雨の中を足利驛へと向つた。(吉田康麿記)

三田史學會例會報告

第四四〇回例會 昭和三十一年四月三〇日 於一二番教室

近山金次氏歸朝並に新入生歡迎會

オクスフォードの「古典教父學會」について 近山金次氏

第四四一回例會 昭和三十一年五月三〇日 於四〇番教室

ジュセツペ・マツチーニの政治思想 本郷廣太郎氏

大和朝廷の常陸地方經營に關する一問題

——常陸國風土記を中心として—— 井口悦男氏

第四四二回例會 昭和三十一年七月七日 於八番教室

近代世界氣溫上昇現象とその影響 西岡秀雄氏